

科目コード	33271	科目名	保育原理	単位	2
-------	-------	-----	------	----	---

次の設題について、それぞれ1,500字程度でレポートを作成してください。(2設題必答)

設 題 1					
<p>わが国における戦後の保育制度改革について、「保育要領」から始まる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「認定こども園教育・保育要領」を年代順に示し、その要点を簡潔に説明してください。</p>					
<p>— 作成の手引き —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第4章第2節(4)「戦後における保育制度改革」に関する設題です。変遷の経緯と内容を分かりやすく簡潔にまとめましょう。</li> <li>・配本テキストを熟読し、保育制度改革の流れ、改訂(改定)の内容をしっかりと理解しましょう。</li> <li>・制度改革の背景にある子育て家庭の現状についても理解しましょう。</li> <li>・告示、通知、刊行、改訂、改定の違いに留意しましょう。</li> <li>・年代順に見出しや段落、改行を工夫し、分かりやすくまとめましょう。</li> <li>・参考文献の記載方法について学び、配本テキスト、解説書、書籍、資料、論文等、参考にした文献等の必要な情報を文末に漏れなく記載しましょう。</li> <li>・制度改革の流れ全体的に捉えるために図表を用いる場合は、文末(参考文献の前)に添付し、出典を明らかにしてください。</li> <li>・テキストや参考文献そのままの表現を避け、自分なりの言葉で表現しましょう。</li> </ul>					
設 題 2					
<p>保育所の特性を生かした「家庭との連携」「子育て支援」について、具体的な方法や事例を交えてまとめてください。</p>					
<p>— 作成の手引き —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第2章第3節「家庭との連携」、第2章第3節「子育て支援」、保育所保育指針第1章1(1)「保育所の役割」、第4章「子育て支援」に関する設題です。テキスト、保育所保育指針を熟読し、「保育所の特性を生かした」「保育士の専門性を生かした」という点に留意しまとめましょう。</li> </ul> <p>① 家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携の必要性について学び、まとめましょう。</li> <li>・家庭との連携方法や保護者との関係づくりについて、具体的な方法を交えて説明してください。</li> </ul> <p>② 子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所における子育て支援の基本的事項(保育所の特性を生かした子育て支援、子育て支援に関して留意すべき事項)について学び、まとめましょう。</li> <li>・保育所を利用している保護者に対する子育て支援についてまとめましょう。</li> <li>・地域の保護者等に対する子育て支援についてまとめましょう。</li> <li>・テキストや参考文献そのままの表現を避け、自分なりの言葉で表現しまとめましょう。</li> </ul>					
参 考 書					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 配本テキスト「保育原理」(平成30年)豊岡短期大学</li> <li>2) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年)フレーベル館</li> <li>3) 厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年)フレーベル館</li> <li>4) 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年)フレーベル館</li> <li>5) 公益財団法人児童育成協会(監修)天野珠路・北野幸子(編集)「新基本保育シリーズ①保育原理」中央法規</li> <li>6) 無藤 隆・汐見稔幸・砂上史子「ここがポイント! 3法令ガイドブッケー新しい『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の理解のために」(2017年)フレーベル館</li> </ol>					

## 【学習の目的・ねらい】

### <設題1のねらい>

繰り返されてきた保育制度改革の歴史、変遷は、その時々時代の背景を反映し、今必要な乳幼児期の育ちを前提に見直されてきました。保育制度の変遷を時代背景とともに学ぶことは、子育て家庭を取り巻く現状を知り、子ども一人ひとりに気持ちを寄せ、保護者一人ひとりに気持ちを寄せ、想いと願いをもって共に育ちあう関係性につながります。

### <設題2のねらい>

家庭との連携の必要性和具体的な方法が理解でき、実践に結び付けて考えることができることは、子どもの育ちを家庭と共有し、子育てに悩む保護者の支援にも直結します。また、地域に暮らす子育て家庭の支援も含め、保育所に求められている子育て支援の必要性を理解することは、子ども一人ひとりの最善の利益を考えることにもつながります。

## 【学習の進め方】

配本テキストの第1章から第6章まで順に読み、さらに『保育所保育指針解説』の関連部分も合わせて読みましょう。保育の原理に関する他の図書、資料や論文等にも目を通し、学びを深めた上でレポート作成に取り組みましょう。

1. 保育とは
  - (1) 保育の意義
  - (2) 子どもの最善の利益を考慮した保育
  - (3) 家庭との協働
  - (4) 保育の社会的意義
2. 保育所保育指針における保育の基本
  - (1) 保育の基本
  - (2) 環境による保育
  - (3) 発達に応じた保育
  - (4) 養護と教育の一体性
  - (5) 保育の計画と評価
  - (6) 子どもの健康と安全
  - (7) 子育て支援
  - (8) 保育士の専門性
3. 保育の質を高めるための方法
  - (1) 望ましい未来をつくり出す力の基礎を養う
  - (2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育
  - (3) 保育における個と集団への配慮
4. 保育の思想と歴史の変遷
  - (1) 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展
  - (2) わが国における保育の歴史の変遷
5. 保育の制度
  - (1) 保育所
  - (2) 幼稚園
  - (3) 認定こども園
  - (4) 家庭的保育事業
6. 保育の現状と課題
  - (1) 日本の保育の現状と課題
  - (2) 諸外国の保育の現状と課題

## 【学習のポイント等】

<レポート設題での学びを通して保育現場の様々な問題について課題意識を持ちましょう>

- ・我が国の保育・幼児教育の歴史を知り、現行の「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂(改定)の背景や経緯、方向性や要点についても理解しましょう。
- ・日本の保育の現状について学ぶ気持ちを向けることは、実践の場での小さなやり取り(家庭との連携や支援)につながります。テキストや解説書、参考文献で述べられている一つひとつに、課題意識と温かな想いをもって学び取りましょう。
- ・保育の現場は、人が人と関わり言葉を交わし、子どもたちや保護者と共に保育者も育つ場所です。学びの機会を大切に、学ぶ姿勢を持ち続けていきましょう。
- ・実践の現場では、記録を残す、連絡帳を書く、お便りを作成する、家庭連絡をするなど、言葉で想いを伝える、考えをまとめる、文章で状況を伝えるといった業務がたくさん存在します。保育者に求められる大切な専門性の一つでもあります。レポート作成や試験を通して、「問われていることを理解し、自分の言葉でわかりやすく伝える」という学びを積み重ねてください。